

「みえの現場・すごいやんかトーク大学編」 in 三重大大学の概要

12月8日（木）に三重大大学で「みえの現場・すごいやんかトーク大学編」を開催しました。

当日は、「創り・拓いてきた活動と“つながり”」というテーマで、地域活動に取り組む学生19名と知事が意見交換を行いました。



（活動内容の紹介及び自己紹介）

会場には、参加者がこれまで、5回にわたって、このテーマに基づき、議論しながら、自分たちの活動と地域との関わりを図にした“つながり図”が張りだされ、それをスライドで映し出しながら、自己紹介と活動内容、活動への思いなどを紹介しました。



リヤカーで日本縦断しながら、地産地消のたこ焼き屋をした学生のたこ焼きの味を確かめる！

学生の活動は、病気の子もたちやその家族の支援や、被災地でのボランティア活動、地域活性化のための活動や、国際的な医療活動など、多岐にわたる幅広い分野で活躍しており、その活動を通じて、

トーク参加者及び活動内容について

○ ファシリテーター

教育学部 根津 知佳子 教授

● 医学部自治会副会長

医学部医学科 4年 今 鉄男

● みえ災害ボランティアセンター

事務局ボランティア

医学部看護学科 4年 浅野 彩子

● 志摩市における里海計画への参画

生物資源学部資源循環学科

3年 北村 佳史

3年 小林 花菜子

● 「café HONO BOUNO」出店店長

（大門のにぎわいプラザ）

教育学部生涯教育課程 3年 山村 祐希菜

● 学生国際協力団体「Hearts Tree」代表

医学部医学科 4年 中西 貴大

2年 嘉祥 敬国

● 飲食店「バズーカ」（学生が経営する飲食店）

元代表

医学部医学科 6年 岡部 大地

● 飲食店「O+」（学生が起業し、地域の主婦や

学生が日替わりでシェフを務めるワンディシェフ

制度を取り入れた飲食店）メンバー

生物資源学部共生環境学科

4年 北岡 祐一

医学部看護学科 4年 塩崎 由佳

● 三重大大学 TABLE FOR TWO

医学部医学科 4年 青柳 誓悟

● 三重大大学ユネスコクラブ

生物資源学部共生環境学科

3年 桐山 貴衣

人文学部文化学科 2年 平野 真由

● 特別支援教育に関する取組

教育学研究科特別支援教育専攻

大学院1年 舛本 大輔

● 三重大大学環境 ISO 学生委員会

人文学部法律経済学科 3年 金山 真之

工学部情報工学科 2年 中村 浩俊

● 学生ボランティアサークル「ぞくよん」

教育学部学校教育教員養成課程

4年 鈴木 友里

● 地産地消たこやき屋（リアカーで日本縦断）

教育学部生涯教育課程 4年 森田 松之助

● 美し国三重のさきもり補

工学研究科建築学専攻

大学院2年 嶋津 将徳

地域内外の世代を超えた多くの人たちとのつながりが生まれたことなどを説明しました。

（つながりを広げていくために必要なこと）

次に、自分の周りには自分からはつながりが持てない人たちを巻き込んでいくために、必要だと思うことについては、

- ・ つながりを持ちたいと思っていても、何をしたらいいかわからない人が多いと思うので、一步を踏み出すきっかけを与えることが重要。
- ・ 自分が何をするか選択するために、活動内容の情報をキャッチする場や既に活動している人たちがマスコミなどを通じて情報発信したり、活動をPRする場を提供することが大切。
- ・ 県は、いろいろな団体が出来てきた時に、それらをつなげる役割を担うことが一番大切。

などの意見が出されました。

（これまでの活動を通じて感じたこと）

これまでのそれぞれの活動を通じて感じた課題としては、「障がいを持つ人への対応として、例えば、車椅子の人と視覚障害を抱えている方の共存という視点が必要。点字ブロックは、視覚障害の方には有効でも、その段差が車椅子の妨げになることもあるため、ニーズの違いから生じる壁からつながりが途絶えることもある。」「熊野川流域の問題について、川は複数の市町にまたがって流れているので、個々の自治体だけでは対応が困難なところがあるので、県は広域的な役割を担うべき」と行った意見が出されました。

また、今後世代を超えてつなげていくためには、「活動についてミーティングする場所がほしい」「県にもっと気軽に相談する窓口があったらいい」といった意見がありました。

（これからの三重県について）

学生から、知事がこれから力をいれていきたい分野について質問があり、知事は、経済、観光、スポーツ、教育、医療などの分野に今までよりももっと力を入れていきたいと思いを伝えました。

特にスポーツについては、「三重のいいところは、英語でたとえると“ beautiful ”や“ natural ”

“ smart ”といった言葉で言い表すことができるが、逆に“ power ”や“ energy ”が少し足りないと感じている。また、三重県には多様性はあるけど、一体感が時に欠ける時があるのではないかなと思うので、これらをもたらせてくれるスポーツに力を入れていきたい」という思いを伝えました。

また、学生からは、「今後の医療の方向性として、『予防』に力をいれてほしい。三重県が『予防のメッカ』となるように取り組んでほしい」「医療は生活の一部なので、ジムと病院をドッキングさせたような施設があってもいいのではないか」「ものづくりだけだと、製品を売ったら終わってしまうが、そこに作り手の思いなど人と人が係わる物語がプラスされるとずっと続いていくものになるので、大学なども一緒にそういったプロジェクトがあったらいいのではないか」「三重県をもっと世界に情報発信してほしい。行政だけでなく、学生や地域で活動している団体を応援することでも、三重県の実在をアピールできるのではないか」といった意見出されました。

知事から皆さんへのメッセージ

最後に、知事からは、活発な意見交換のお礼とともに、物事を前に進めるためには、たくさんの人たちとのつながりや、共感してくれる多くの人の力が必要なので、これからも是非このような機会を設けていきたいし、物事を動かしていくときには是非皆さんの力もお借りし、一緒に頑張っていきたい」とのメッセージがありました。

